

- ・自分でできることは自分で考え、体を動かし、さまざまな遊びや活動を進んでしようとする
- ・くじけず投げ出さず、成功体験を力にして、できることを増やして自信をもつ

健康な心と体

思考力の芽生え

「どうやるの？」



「ここに、足を入れるんだよ。」

*目標をもって、意欲的に取り組む



*生活習慣が身につく

今度は、どこの穴を通るかなあ。



*不思議に思ったことを、予想したり確かめたりする

大きな氷！向こうが見えるかな？



自立心

きのこ回しがしたいなあ。



「ギュッギュッしたら、硬いのができてきたよ。」



*自分で考え、工夫する



「お花の形や、ちょうちょの形ができた。」



「どうやったら、色が出るの？」

- ・身近な自然に関心をもち、新しい発見や体験を、生活に取り入れて遊ぶ
- ・生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにしたり、自分なりの言葉で表現したりする

豊かな感性と表現

「おいしそうなケーキができた！」



*感情や思いを言葉にして表現する

「みてみて！大きな水。」



自然との関わり・ 生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心、感覚

「1個ずつ増やして階段にするの。」



「いちばん長く編めたよ。」



「かなへびさん、ごはんだよ。」



*栽培や飼育を通して動植物に愛着をもつ

「あと3本たおすぞ！」



*自分の意思や気持ちを相手に伝えたり、相手の話を注意深くきいたりする



遊びを通じ友達の前で話す経験を重ねます

言葉による伝え合い

「いらっしゃいませー。」



「くるまください。」



絵本の読み聞かせにじっくり耳を傾けています

「ちょうちょさん、
元気だね〜。」



幼虫から育て、
蝶になりました

- ・ 約束や決まりを守り、励ましたり助け合ったりして一緒に活動する子
- ・ 思っていることを相手に伝えたり、相手の思っていることに気づいたりしながら、心地よく生活する

協同性

「水、もったいる？」



* 同じ目的のために友達と協力する

「点数つける人が
いるんじゃない？」



「やってもいいよ。」

テーブルホッケー

「そうだね、
あると良いね。」

社会生活との関わり

「きれいになったよ。」



地域の人に手伝ってもらいながら、焼き芋の準備

* 地域の人たちと親しみを持って接する

「ありがとう。」



「たくさんあったね。」

パトロール当番（片付け忘れがないか確認）

* 人の役に立つ喜びを感じる

道徳性・規範意識の芽生え

「これ、使ってもいい？」



* ルールを理解し、守ろうとする

信号を見て、手を挙げて渡る



※文部科学省 推奨

幼稚園での生活を通して育む

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」

<参考：西部幼稚園 保護者啓発資料>

小学校教員による園実習後の感想（アンケート結果）

<小学校教員へのアンケート調査より>

1 園児の様子について

- ・園児が日常生活から得た気づきを遊びに生かしていた。
- ・ロボット作りで、丸のロボット、四角のロボット等、形の違いへの気づきがいかにされていた。
- ・幼児教育は、1つの遊びをみんなでするイメージであったが、自分で遊びを選択して、主体的に遊ぶ姿が印象的であった。
- ・少ない指示で自分から動いていた。小学校はもっと指示を減らせると感じた。
- ・どんどんイメージを広げて遊んでいた。小学校で集中力がもたない子供は、集中力がないうことが原因ではないと感じた。

2 職員の子供へのかかわり方について

- ・職員が指示するのではなく、自主的にできるように促したり、遊びを選択させたりしていた。子供の思いを大切に職員が支援していた。
- ・子供の思いによりそって言葉にすることが、言葉による伝えあいの土台になっていると感じた。
- ・子供に個々の目標を持たせるのは印象的だった。一斉保育と自由保育でメリット、デメリットがあり園の先生方も悩んでいることが分かった。
- ・いろいろな遊びをしている子供がいる中で、常に全体を見て子供の様子を把握している職員の観察力がすごいと感じた。

3 環境について

- ・子供の自主性、興味関心を大切にされた遊びができるよう、環境づくりされていた。
- ・個に遊びを選択させることで、得意なことを見付けたり、好奇心旺盛な子供に育ったりするよさがあると感じた。
- ・自分のペースで物事が進められる自由度の大きさを感じられた。小学校は全員がそろふことを大切にしており、そこにギャップがあるように感じた。
- ・同じテーマで描かれた作品がなかった。園児それぞれの思いが大切にされていた。
- ・どの子も自分で考えて行動できるように、視覚的な支援がされていた。

4 その他

- ・園児と直接関わることがなかったので貴重な体験になった。受け入れていただいた園に感謝している。今後も継続していきたい。
- ・遊びが学びの芽生えになっていることを、園児の姿をとおして学ぶことができた。
- ・園の学びを生かして、小中と学びをつなげていくことが大切だと感じた。
- ・小学校につながるように、5歳児は話を聞く時間を位置付けていることが分かった。
- ・自由に伸び伸び遊ぶ園と、小学校との差は以前より大きくなっている。入学後にチャイムで行動することは、負担が大きいと感じた。
- ・園の給食より、小学校の給食の方が多くことに驚いた。

<園職員へのアンケート調査より>

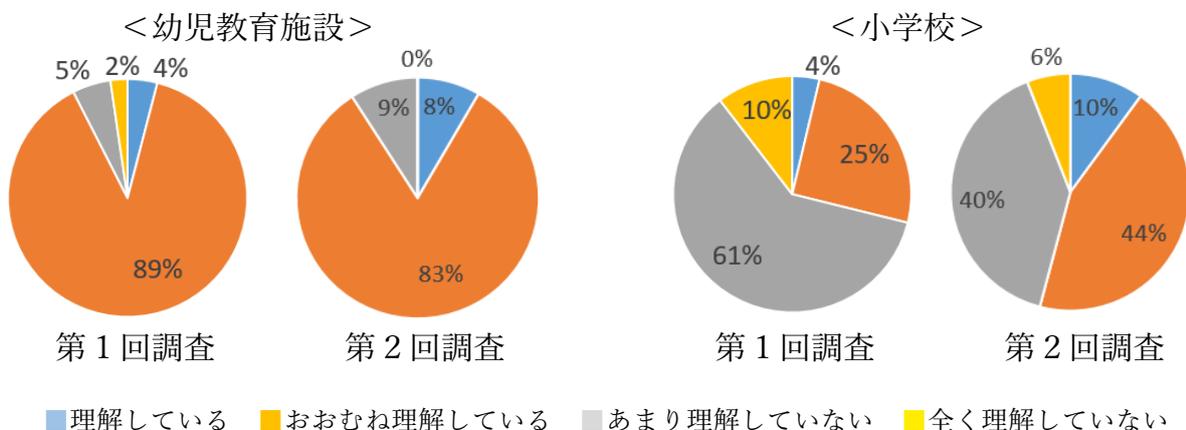
※園実習を実施した保育園、認定こども園に子育て・健幸課がアンケート調査を実施

- 園児が自分たちで考えて行動している姿や、友達と教えあう姿を見ていただき有意義な機会となった。
- 子供の様子から小学校教員が発見されることがあったり、子供の様子をとおして交流できたりして、園と小学校の距離が縮まった気がする。
- 小学校教員が、気になることをすぐに質問する等、積極的に参加していた。
- 事前に小学校参観があったこともあり、園と学校の両方の視点で話し合いができた。お互い大切にしていることや、困り感を共有できた。
- 小学校教員の、子供たちへの接し方や言葉がけから学ぶところがあった。
- 1回の実習では、「10の姿」の育ちまでは理解が難しいので継続的に行えるとよい。
- 小学校教員の子供の見方が「大変かどうか」に偏っていると感じた。園と小学校で子供に対する見方が違うと感じた。
- 10の姿について理解を深めた上で実習をしたり、複数回実習があったりするとさらに理解が深まる。
- 各クラスのその日の指導計画を事前に渡しておくとうよかった。

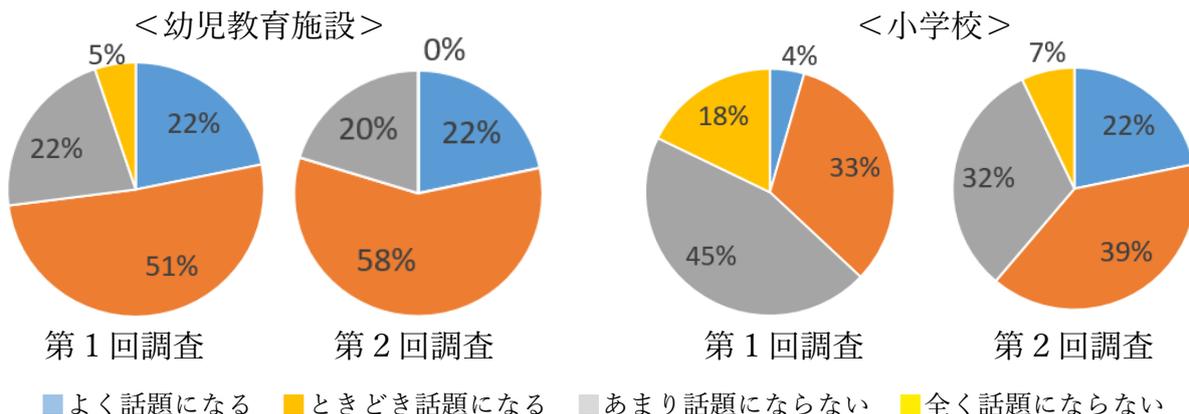
第 2 回幼保小連携に関わる調査＜アンケート調査（教職員用）＞ 結果

○第 1 回幼保小連携に関わる調査＜アンケート調査（教職員用）＞（令和 4 年度分）
 令和 5 年 3 月に実施 幼児教育施設職員 174 名、小学校職員 135 名
 ○第 2 回幼保小連携に関わる調査＜アンケート調査（教職員用）＞（令和 5 年度分）
 令和 5 年 1 2 月に実施 幼児教育施設職員 150 名、小学校職員 170 名

Q 1 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」等に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解していますか。



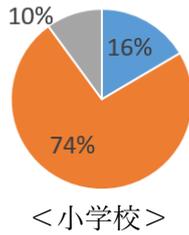
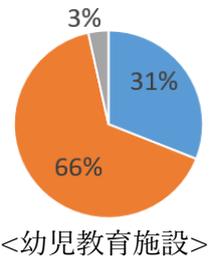
Q 2 幼保小の合同会議や園内・所内・校内の研修会等の中で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が話題になることがありますか。



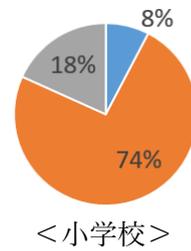
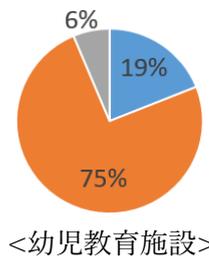
Q3 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から見たとき、次の10の姿について、どのように感じていますか。当てはまるものを1つ選択してください。

※幼児教育施設は令和4年度卒園児（第1回調査）、小学校は令和5年入学児童（第2回調査）

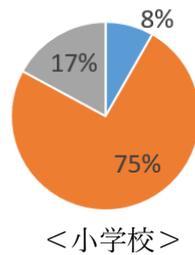
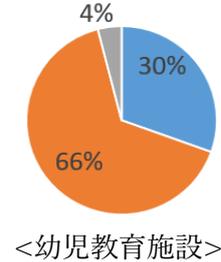
1) 健康な心と体



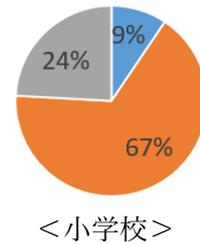
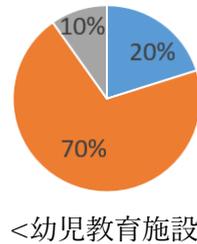
2) 自立心



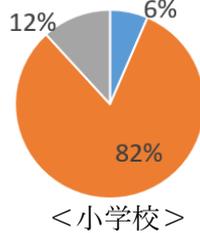
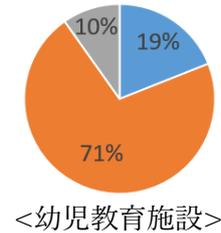
3) 協同性



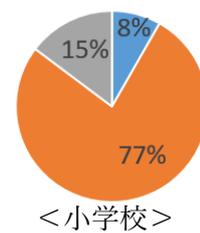
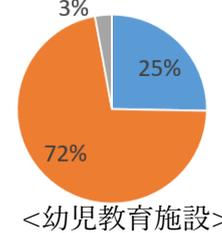
4) 道徳性・規範意識の芽生え



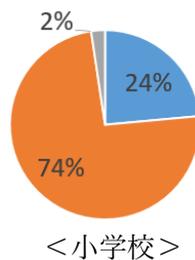
5) 社会生活との関わり



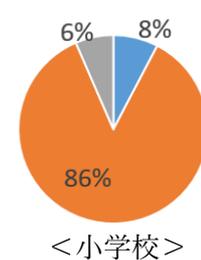
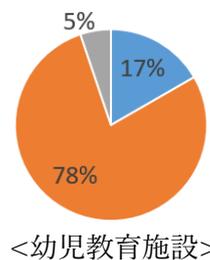
6) 思考力の芽生え



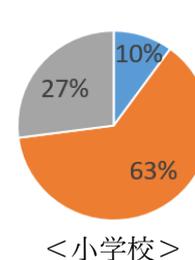
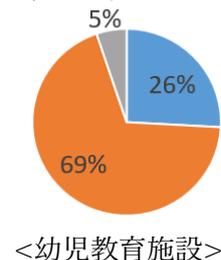
7) 自然との関わり・生命尊重



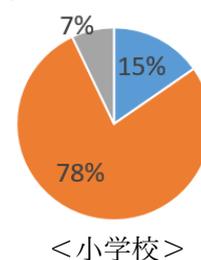
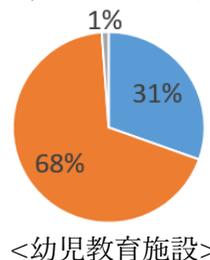
8) 数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚



9) 言葉による伝え合い

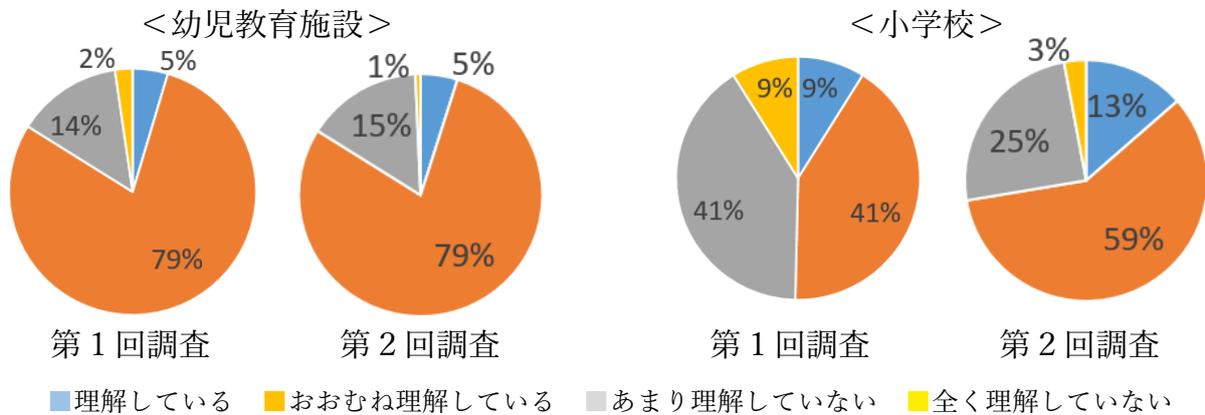


10) 豊かな感性と表現

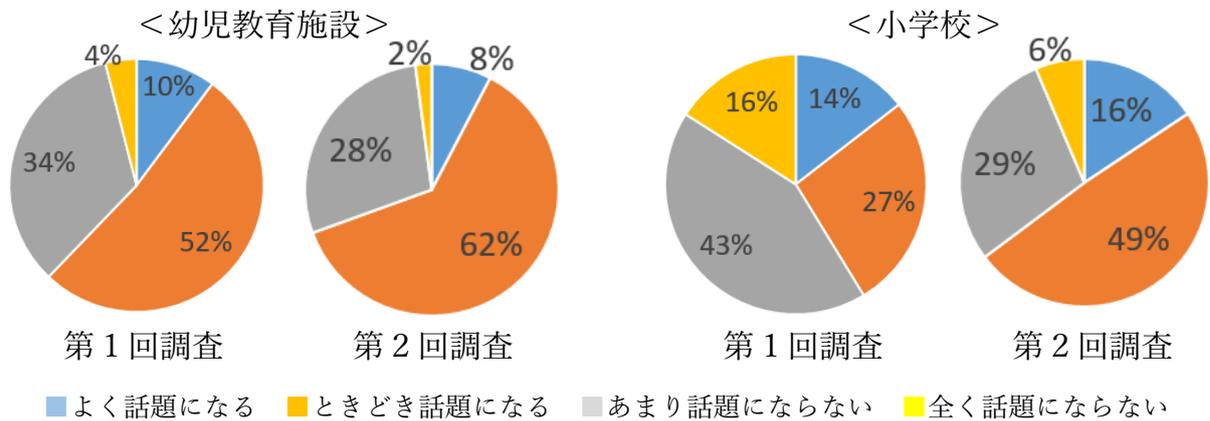


■よく育っていると感じた ■おおむね育っていると感じた ■課題を感じた

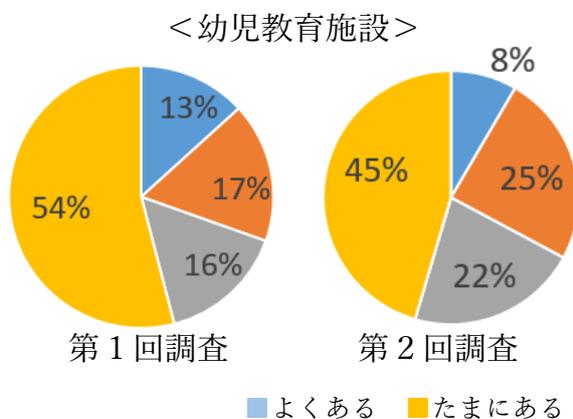
Q 4 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び「小学校学習指導要領」では、育てたい「資質・能力」の3つの柱を示しています。その3つの柱について理解をしていますか。



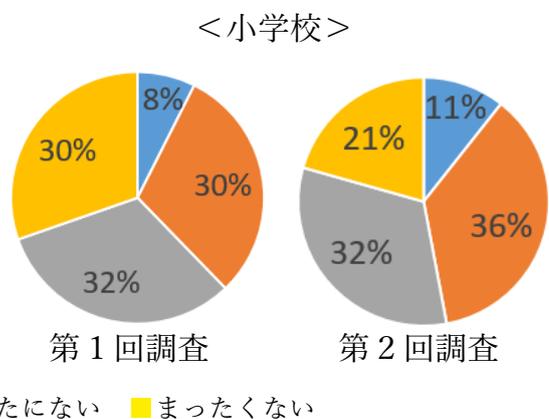
Q 5 Q 4 の3つの柱について、園内や校内の研修会等で話題になることはありますか。



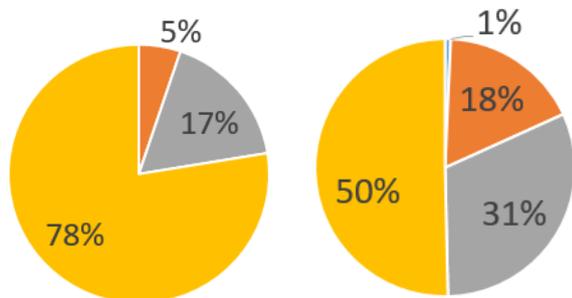
Q 6 小学校の授業参観に参加したことがありますか。



Q 8 幼稚園・保育園・こども園の保育の様子を参観したことがありますか。



Q7 小学校の職員と一緒に研修をした
ことがありますか。
<幼児教育施設>

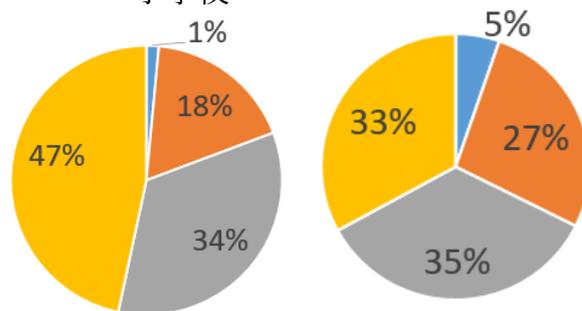


第1回調査

第2回調査

■よくある ■たまにある ■めったにない ■まったくない

Q9 幼稚園・保育園・こども園の職員と
一緒に研修したことがありますか。
<小学校>



第1回調査

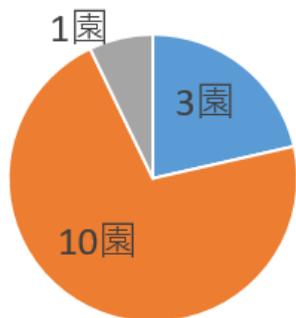
第2回調査

第 2 回幼保小連携に関わる調査<アンケート調査（管理職用）> 結果

○第 1 回幼保小連携に関わる調査<アンケート調査（管理職用）>（令和 4 年度分）
令和 5 年 3 月に実施 幼児教育施設 14 園、小学校 9 校
○第 2 回幼保小連携に関わる調査<アンケート調査（管理職用）>（令和 5 年度分）
令和 5 年 1 2 月に実施 幼児教育施設 14 園、小学校 9 校

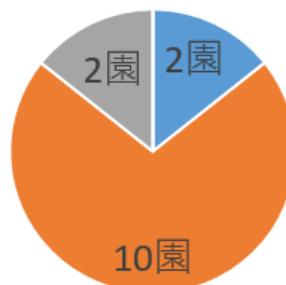
Q1 小学校教育との接続を意識した保育・教育課程の編成や保育・指導計画の作成を行いましたか。

<幼児教育施設>



第 1 回調査

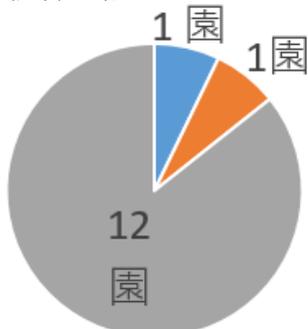
■よく行った ■少し行った ■全く行っていない



第 2 回調査

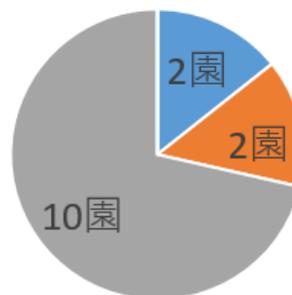
Q2 小学校と協同して、接続を意識したカリキュラムの編成し、実施しましたか。

<幼児教育施設>



第 1 回調査

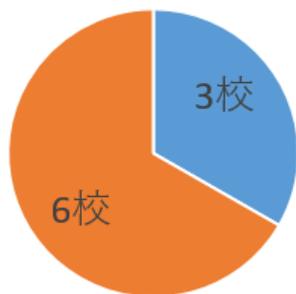
■編成も実施も行った ■編成はしたが実施はしていない ■編成も実施もしていない



第 2 回調査

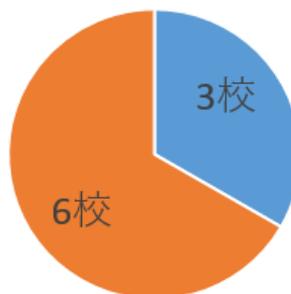
Q3 接続期カリキュラムを編成していますか。

<小学校>



第 1 回調査

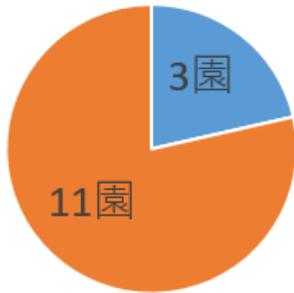
■作成している ■作成していない



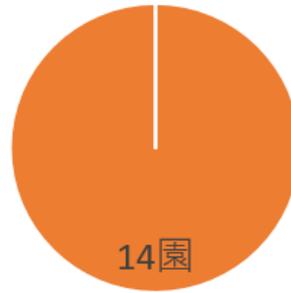
第 2 回調査

Q4 小学校のスタートカリキュラム作成に関して、幼稚園・保育園・認定こども園の職員が助言・協力を行いましたか。

<幼児教育施設>



第1回調査

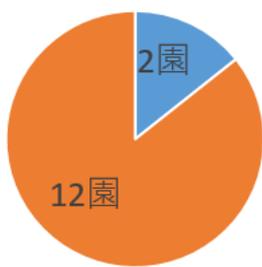


第2回調査

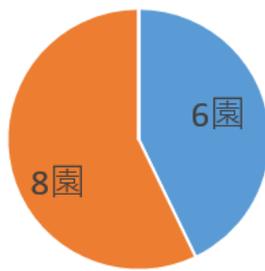
■行った ■行っていない

Q5 (小学校区において) 幼稚園・保育園・認定こども園と小学校の職員の合同研修会は行われましたか。

<幼児教育施設>



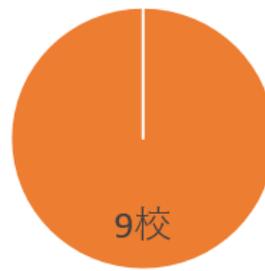
第1回調査



第2回調査

■行われた ■行われていない

<小学校>



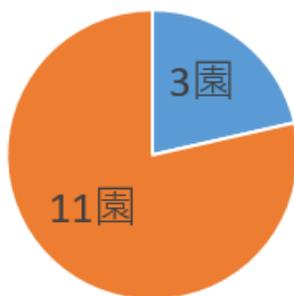
第1回調査



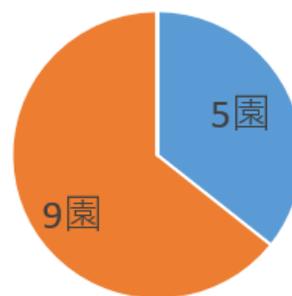
第2回調査

Q6 (小学校区の) 小学校の教員から、幼稚園・保育園・認定こども園の年長児の活動に関して助言・協力を行われましたか。

<幼児教育施設>



第1回調査



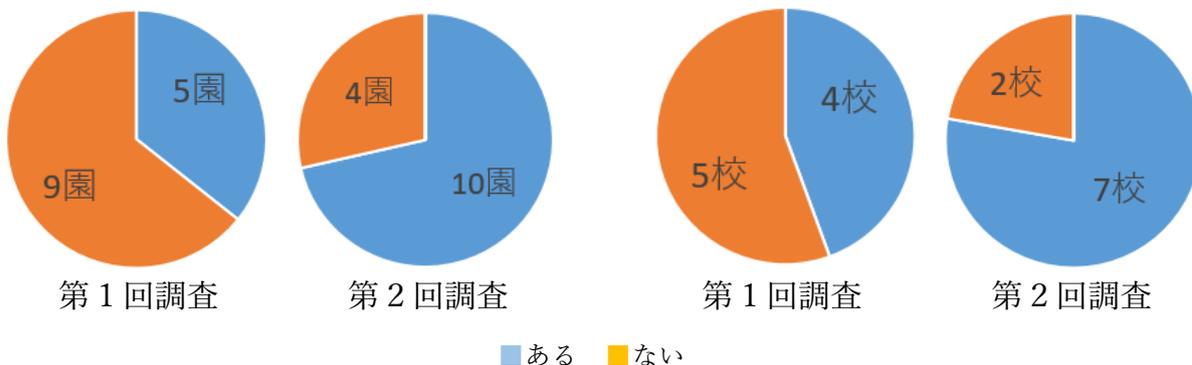
第2回調査

■行われた ■行われていない

Q7 (小学校区において) 幼稚園・保育園・認定こども園の園児と小学校の児童の交流活動はありますか。

<幼児教育施設>

<小学校>

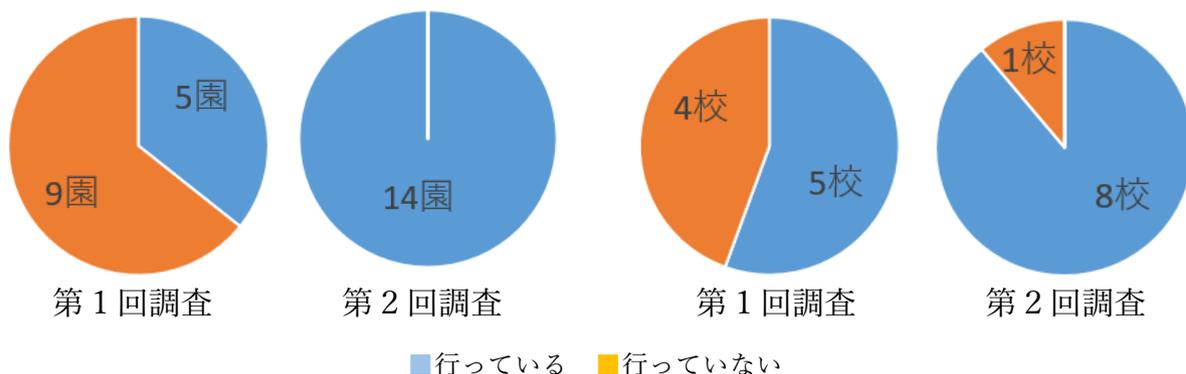


Q8 (小学校区において) 小学校の授業参観を行っていますか。

Q9 (小学校区において) 幼稚園・保育園・認定こども園の授業参観を行っていますか。

<幼児教育施設>

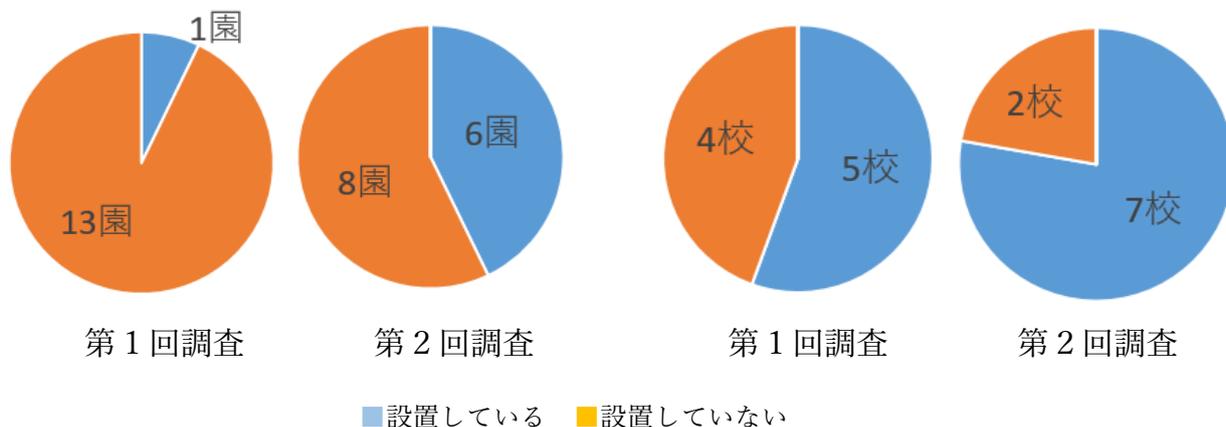
<小学校>



Q10 幼保小連携のための分掌を設置していますか。

<幼児教育施設>

<小学校>



第2回幼保小連携に関わる調査＜実態調査（管理職用）＞ 結果

- 第1回幼保小連携に関わる調査＜実態調査（管理職用）＞（令和4年度分）
令和5年3月に実施 幼児教育施設 14園、小学校 9校
- 第2回幼保小連携に関わる調査＜実態調査（管理職用）＞（令和5年度分）
令和5年12月に実施 幼児教育施設 14園、小学校 9校

1 小学校区における取組みについて

＜幼児教育施設＞

各取組みを実施した園数（園）

| | 第1回 | 第2回 |
|----------------|-----|-----|
| A：園児と児童の交流 | 3園 | 10園 |
| B：職員同士の研修や合同会議 | 14園 | 13園 |
| C：地域の行事等に参加 | 1園 | 2園 |
| D：学校参観、園参観 | 10園 | 14園 |
| E：小学校実習・園実習 | 1園 | 11園 |
| F：その他 | 5園 | 3園 |

＜小学校＞

各取組みを実施した校数（校）

| | 第1回 | 第2回 |
|----------------|-----|-----|
| A：園児と児童の交流 | 4校 | 7校 |
| B：職員同士の研修や合同会議 | 9校 | 9校 |
| C：地域の行事等に参加 | 2校 | 1校 |
| D：学校参観、園参観 | 7校 | 9校 |
| E：小学校実習・園実習 | 1校 | 9校 |
| F：その他 | 6校 | 3校 |

- ・「A：園児と児童の交流」は、新型コロナウイルスの影響が軽減され、増加している。生活科で1年生と交流したり、高学年が学校を案内したりする活動が実施された。
- ・「B：職員同士の研修や合同会議」は、全小学校区で実施されていた。今年度は、引継ぎだけでなく、お互いの教育・保育についての理解を深める内容や、子供の姿についての交流が増加した。
- ・「D：学校参観、園参観」では、すべての小学校で、園職員が小学校の授業を見に行く機会が設けられた。
- ・「E：小学校実習・園実習」は、市の取り組みで小学校教員による園実習が行われたため、小学校は実施学校数が9校になっている。

2 小学校と園の合同会議

＜構成員について＞

- ・小学校は、教頭、教務主任、1年生担任が多い。
- ・幼児教育施設については、園長、主任、前年度の5歳児の担任が多い。

＜内容について＞

- ・園や小学校の参観を行った後、子供の姿をもとに意見交換
- ・園の様子を踏まえた個別の援助の仕方
- ・園や小学校の教育・保育の方針
- ・小学校区で育成したい資質・能力

3 成果と課題についての意見（○成果 ●課題）

<幼児教育施設職員の意見>

- 入学後の卒園児の様子や、学校が就学前に身に付けてほしい力を知ることができた。
- 今年度は、コロナ禍の影響も少なくなり積極的に交流を行うことができた。
- 園から小学校入学前に一人一人のよさを伝えたところ、担任の指導に活用された。
- 園実習は、幼児教育について小学校教員に理解してもらうよい機会になった。
- 小学校区の交流が増えたことで、お互いの教育・保育への理解が深まった。
- 園での園児の遊ぶ様子を見て、小学校が授業を改善しようとしていた。
- 幼児教育について、幼保小連携の担当者以外の教員も理解することが必要である。
- 幼児期の終わりまでに育てほしい姿への理解は、小学校の教員によって差がある。
- 合同会議は、共通理解のない状態で行われた。小学校に寄せてほしいという話もあり、残念である。
- 交流したことを、今後どのようにお互いの教育・保育につなげるかが課題である。

<小学校職員の意見>

- 園の参観や実習を通して、幼児期の終わりまでに育てほしい姿や、幼児教育で大切にされていることを学び、小学校での学級経営や授業づくりの視点となった。
- お互いが教育・保育を理解し合ったことで、小学校区の連携を今後も続けていきたいという意欲が高まった。
- 小学校入学までに、どのような力を育てたいかについて、子供の実際の姿をもとに交流することができた。
- 学校探検など児童と園児の交流が、小学校生活の見通しをもつことにつながり、不安が解消された。
- 園との交流の機会が増え、園実習や園参観をしたいという教員が増えた。
- 5歳児の園児の実態や、小学校生活のスタートの在り方について小学校区で交流することができた。
- 小学校が主導で連携が行われることが多い。園が要望を出したり、アプローチをしたりして、お互いに意見を出し合えるような関係性になるとよい。
- 幼児期で学んだことが発揮されるにカリキュラムを工夫することが必要である。
- 掃除や給食の様子の参観もあると、園の指導の見通しをもつことができる。
- 大規模小学校は関係のある園が多いため、連絡調整が難しい。
- 市の取組みの園実習は園参観でもよいのではないか。どこまで関わってよいのか迷う場面があった。
- 職員同士の交流は回数が少ないので十分ではない。一方、負担にならないように配慮も必要である。参観や実習の時間の確保が難しい。

令和5年度 幼保小連携に関わる小学校区における実態調査

園・小学校名 _____

担当者名 _____

1 小学校(※)区における取組みについて ※義務教育学校前期を含む

○ 今年度の実施した取組み（予定も含む）について記入して下さい。

| 実施月 | 場所 | 形態 | 内容 |
|-----|----|----|----|
| | | | |
| | | | |
| | | | |

<形態>

A：園児と児童の交流 B：職員同士の会議や合同研修 C：地域の行事等に参加
D：学校参観、園参観 E：小学校実習・園実習 F：その他

2 小学校区の合同会議(引継ぎなども含む)について

(1) 幼保小の合同会議を実施しましたか。実施した場合は回数も教えてください。

ア () 回実施した イ 実施しなかった

(2) (1) で実施したと答えた場合、構成員と内容を教えてください。

<構成員>

小学校 ()

園 ()

<内 容>

3 成果と課題 (○成果 ●課題)

○

●

架け橋期のカリキュラム開発方針（堀津小学校区）

資料 6

| 共通の視点 | | 5歳児 | | 小学校1年生 | | |
|------------------------------------|------------------------|--|--------------------------------------|---|--|--|
| | | I 4月～12月 | II 1・2・3月 | III 4月 | IV 5・6・7月 | V 8月～3月 |
| (1) 期待する子供像 | | 自分のよさを発揮しながら、仲間とともにあきらめずやりぬく堀津の子 ～仲間と願いを伝え合って遊びきる姿から、目的に向かって仲間とやりぬく姿へ～ <重点とする10の姿 ②③⑨ > | | | | |
| | | 仲間とともに考えたり協力したりしながら遊びきる③⑨ | 仲間と願いを伝え合い、自信をもって自分の力を発揮しながら遊びきる③⑨② | 幼児期の学びを発揮し、新しい学校生活への願いや気付きを新しい仲間や教師に伝える③⑨ | 目的に向かって、仲間のアイデアを生かしながら、創意工夫を繰り返し活動する②⑨ | 目的を達成する中で自己の成長を実感し、自信をもって自分の考えを表現したり、活動につなげたりする② |
| (2) 期待する子供像につながる資質・能力を育成する園、小学校の活動 | ② 自立心 | | | | | |
| | ③ 協同性 | | | | | |
| | ⑨ 言葉による伝え合い | | | | | |
| (3) 指導上の配慮事項 | 先生の関わり | | | ※児童の願いや気付きを大切に、児童が学校生活を創り上げるのを支援する | | |
| | 環境の構成・環境づくり | | | ※教室に遊びスペースを準備する。 (こま、けん玉、パターンブロック) ※学級図書の設定 | | |
| (4) 子供の交流 | 児童と園児 | ※1年生との交流(7月・11月) ※5年生と学校探検(12月) | | | ※5歳児(もも組)との交流(生活科) | ※5歳児(もも組)との交流(生活科) |
| | 園児と園児(園) 児童と児童(小学校) | | | ※1年生を迎える会(4月) | | |
| (5) 職員の交流 | | ※小学校区合同会議・小参観(4月) ※小学校区合同会議・園参観(6月) ※市幼保小連携担当者会(8月) | ※市幼保小連携担当者会(2月) ※小学校区合同会議・引継ぎ(3月) | ※小学校区合同会議・小参観(4月) | ※小学校区合同会議・園参観(6月) | ※園実習(8月) ※幼保小連携担当者会(8月) |
| (6) 学校行事・家庭や地域との連携 | | ※入園式(4月) ※保育参観 | | ※入学式(4月) | | ※卒業式(3月) |

架け橋期のカリキュラム振り返りシート(堀津小学校区 園用)

資料 7

| 共通の視点 | | 5歳児 | |
|--|----------------|---|-------------------------------------|
| | | I 4月～12月 | II 1・2・3月 |
| (1) 期待する子供像 | | 自分のよさを発揮しながら、仲間とともにあきらめずやりぬく堀津の子 ～仲間と願いを伝え合って遊びきる姿から、目的に向かって仲間とやりぬく姿へ～ <重点とする10の姿 ②③④> | |
| | | 仲間とともに考えたり協力したりしながら遊びきる③④ | 仲間と願いを伝え合い、自信をもって自分の力を発揮しながら遊びきる③④② |
| (2) 期待する子供像につながる資質・能力を育成する園、小学校の活動 ※新たに追記した活動は●をつける。削除した方がよい活動は▲をつける。 | ② 自立心 | | |
| | ③ 協同性 | 園内で、カリキュラム開発会議までに、開発方針から新たに追記した活動に●、削除した方がよい活動に▲をつけておく。 | |
| | ④ 言葉による伝え合い | | |
| A 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られた子供の学びの姿 ※どのような遊び・学習活動で、どのような姿が見られたかを記入する。有効であった環境設定や支援を明記するとよい。 | | 園内で、カリキュラム開発会議までに記入しておく。 | |
| B カリキュラム開発会議より ※よかった点や、今後の改善等を明記する | | カリキュラム開発会議後に記入する。 | |

架け橋期のカリキュラム振り返りシート(堀津小学校区 小学校用)

| 共通の視点 | | 小学校1年生 | | |
|--|----------------|--|--|--|
| | | Ⅲ 4月 | Ⅳ 5・6・7月 | Ⅴ 8月～3月 |
| (1) 期待する子供像 | | 自分のよさを発揮しながら、仲間とともにあきらめずやりぬく堀津の子 ～仲間と願いを伝え合って遊びきる姿から、目的に向かって仲間とやりぬく姿へ～ <重点とする10の姿 ②③⑨ > | | |
| | | 幼児期の学びを発揮し、新しい学校生活への願いや気付きを新しい仲間や教師に伝えることができる③⑨ | 目的に向かって、仲間のアイデアを生かしながら、創意工夫を繰り返し活動する②⑨ | 目的を達成する中で自己の成長を実感し、自信をもって自分の考えを表現したり、活動につなげたりする② |
| (2) 期待する子供像につながる資質・能力を育成する園、小学校の活動 ※新たに追記した活動は●をつける。削除した方がよい活動は▲をつける。 | ② 自立心 | | | |
| | ③ 協同性 | 小学校内で、カリキュラム開発会議までに、開発方針から新たに追記した活動に●、削除した方がよい活動に▲をつけておく。 | | |
| | ⑨ 言葉による伝え合い | | | |
| A 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られた子供の学びの姿 ※どのような遊び・学習活動で、どのような姿が見られたかを記入する。有効であった環境設定や支援を明記するとよい。 | | 小学校内で、カリキュラム開発会議までに記入しておく。 | | |
| B カリキュラム開発会議より ※よかった点や、今後の改善等を明記する | | カリキュラム開発会議後に記入する。 | | |